

第81回倫理委員会 報告書

【日時】2016年12月10日(土) 午後4時~午後5時20分

【場所】坂総合病院 カンファ2

【出欠】委員 歯科医師1、宗教家1、弁護士1、患者会1

医師2、看護師1

事務局 3

【議題】

1、第80回委員会(16.10.22)報告について・・・①

承認した。

2、迅速審査報告

以下2点について事務局で迅速審査を行った。内容について報告を行い委員会として承認した。

1) 脳卒中後上肢麻痺に対するロボット療法を含む複合療法の効果検討 改定

第1.2版→第2.0版

————— リハビリテーション科 医師

2) (WJOG8515L) T790M 変異以外の機序にてEGFR-TKIに耐性化したEGFR遺伝子変異陽性非扁平上皮がんに対するニボルマブとニボルマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド併用療法を比較する第Ⅱ相臨床試験 改定

V1.00→V2.00

————— 呼吸器科 医師

3、ドラマで考える医療倫理(DVD視聴 約21分)

「知らなくていい」:研修医の三浦ちさと(27)は、ある日スーパーマーケットで声を掛けられる。かつて看取った患者の娘・加藤あかねさん(17)だった。亡き母親の病理診断の最終的な結果が出たかどうかと問われ、ちさとは翌日病理医のもとを訪ねる。

<背景>

- 死亡時の臨床診断は「原発性肺高血圧症、乳癌局所再発・転移はなし」であったが、病理解剖の結果、「死因は、続発性肺高血圧症であり、呼吸不全の原因は乳癌再発によるもの」と判明した。
- 原発性肺高血圧症として治療していた。乳癌が原因とすると、治療内容は変わっていた。

<倫理的検討事項>

- 最終的な病理解剖の結果が、臨床診断と異なる結果となった事実を、家族へ伝えるべきか否か

■家族の希望

- 娘: 病理診断結果を知りたい
- 夫: 結果はそこまで求めていない。最善を尽くしてくれた病院に感謝をしている

■主治医の意見

- 再発と診断できていたとしてもどのみち予後は長くなかった
- 今さら伝えても何も変わらない
- 家族はようやく生活に慣れてきたのに、遺族の心をかき乱すことになるのでは。
- 事実を伝えることが家族のためになるのか。

■研修医の意見

- 本当のことを伝えるべきではないか。
- 何を伝えて何を伝えないか、医者が決めることなのか。

倫理委員会の意見

- 当院でも、死因が解らないで亡くなるパターンは、昔は多かったが、医療技術の進歩によって今は大分減っている。また、病理診断の結果を伝えるかどうかははっきりとは決まっていない。今回のケースのように、家族へ説明する際に、「病理結果が出たら連絡する」旨の説明はしていない。
- 伝えるかどうかを主治医の判断だけで決めていいのか。主治医以外の関係スタッフでもっと話し合いをするべきではないか。
- 今回のケースは「誤診」というわけではない。病理診断でしか再発は判明できなかった。きちんと伝えて説明をするべきではないか。
- 例えば、癌であって、その治療方法があったとすれば、亡くなる前に診断できなかったことに納得はできないだろう。

*次回委員会日程

第82回委員会：2016年02月18日 or 25日（土）16時～ 病院カンファ2

※2月の第2土曜日は祝日のため、第3か、第4となります。

※2月の委員会に合わせて、臨床研究の学習会（年1回受講必須）を行います。

第83回委員会：2016年04月08日（土）16時～ 病院カンファ2

以上